

平成 21 年 12 月 29 日  
邦訳：インド・アジア開発

## Zardari 大統領の幕引き

汚職事件に関する最高裁の大赦取消決定は、ザルダリの政治生命碑か

殆ど毎日テロ攻撃が発生し、テロ勃発への全面的闘いをしている国で衝撃的な政治的爆弾が炸裂した。物理的被害や破壊は無いものの、この爆弾の衝撃はパキスタンの政治的局を変え、そして Asif Ali Zardari 大統領の政治的破滅を綴るであろうことが確実視される。12 月 16 日にパキスタン最高裁全判事 17 名が満場一致で下した判断は、前大統領 Pervez Musharraf 将軍が 2007 年 10 月 5 日に公布した国家和解法( National Reconciliation Ordinance - NRO )を遡及的に無効とした。

NRO, Musharraf 将軍が現役の俣 大統領に再任された当日の夕刻有効になったのだが、は米国の斡旋に依るものであったと広く知られており、暗殺されたパキスタン人民党 (PPP) 党首 Benazir Bhutto がムシャラフ再任を密かに支援することの代償だった。当時、米国は同盟者ムシャラフ将軍を支援するのみならず、世俗主義を持ち込み且つイスラム過激派との闘いに自由主義勢力を捲き込むべく試みていた。

議会の承認無しの他の布告同様これは法に転換され、NRO は既に時も経過している。政治家と官僚、Bhutto と彼女の配偶者 Zardari は大規模汚職で追及されていたのだが、に対する数多くの刑事事件及び汚職事件追及はこの公布で幕を閉じた。

最高裁の結論は、NRO は憲法に直接矛盾するものであり、void ab initio, つまり存在しなかったもの看做す、というものである。その結果、NRO の下 幕を閉じられた全事件は息を吹き返すことになった。Zardari 以外に、最高裁決定の矛先が直ちに向けられる人々には Zardari の仲間達、現内相 Rheman Malik, 大統領府首席次官 Salman Farooqui がいる、この二人は NRO の下 汚職事件を幕引きして貰っている。

二人は逃亡者と宣告されたので一彼らは政治的な誘導犯罪との宣告から逃れるべく 90 年代にパキスタンから出国した一いまや逮捕に脅かされている。よしんば彼等が逮捕されなくても、反対派政治家 Imran Khan の言に依れば、NRO 庇護下の官僚達の辞任騒ぎが確実に増えるだろう。

大統領職は法廷による裁判手続免責であり、弾劾の見込みも薄いので、ザルダリに即時の脅威は無いが、脅威回避の彼への心理的圧力は途方も無く大きくなって来ている。キックバックと手数料で 1 5 億ドル以上を吸上げた罪科などで、彼の名前は裁判所の諸手続中に既に引用されてきており、罪科は捏造であると彼は主張し続けているが、メディア

は改めて罪科のことを報道している。野党パキスタン・ムスリムリーグ (N) の指導者の 1 人であり、従来「友好的野党」と考えられていた元首相 Nawaz Sharif の腹心の友である国会議員 Khawaja Asif 女史が心理的圧迫の追加になっている。NRO に対する決定が発表されるや、直ちに彼女はザルダリに辞任を要求した。

大統領側は、この種全ての要求を「根拠の無いもの」「冗談」として無視してきているが、大統領の地位が揺らぐことに疑問の余地は無い。最高裁の特別指揮が、スイスなど外国での事件を蒸し返し、精力的に迫及していることに世間の深い関心が寄せられているし、パキスタン憲法で認められている大統領免責特典が、この種外国での裁判には役立たない公算大である。

スイスの裁判所に於けるサルダリ裁判は強力な証拠にも基づくものであったし、弁護士の「被告は精神状態不安定」を理由とする出廷不能申立を含む、裁判遅延策で大統領は時間稼ぎするしかある方策はあるまい、と見られている。事実、訴訟の一つで Zardari と Bhutto は被告不在で 6 ヶ月収監を宣告されているが、上告中で収監保留になっている。NRO 公布後パキスタン政府はそれらの事件追求を停止したが、彼らのスイスの銀行口座の約 60 百万ドルがこの追求で凍結されて来ている。

国家主席の地位剥奪の法的手段は弾劾に限られるし、軍事クーデタになるとは誰も思っていないが、倫理的プレッシャー以上の他の脅威が彼の地位を脅かすだろう。訴訟事件蒸返しゆえ、大統領選で挑戦される見込みである。法律専門家によると、憲法が定める大統領への選出手続をザルダリは充たしていないと論ずる審査請求書が裁判所に提出される可能性あり、と言う。憲法学者 Mirza Mahmood は「実際、この種請願が為されることはほぼ確実」と述べている。

ザルダリに近い筋は、ザルダリは闘うだろうと表明している。パキスタン人民党(PPP)上層部の筋も「若し大統領職降板すれば、大統領免責特典喪失ゆえ、選択の余地は無い」と述べている。ザルダリが壁に押し付けられたら、彼は「Sindh card」、出身地域の PPP 活動家の感情に—活動家達は我々の指導者は常にイスラマバッドでの共謀標的にされて来ていると信じている—訴えると言う手段を採るかも知れないということも関心事である。

ザルダリの異論の多い過去に照らして、斯様なリスク・ゲームを彼が如何に効果的にこなすか、についての評価は分かれるが、国政に於ける地域的不和は解消していない。

一部の識者は、ザルダリが権力を放棄し単なるお飾りになれば、彼は生き残るだろう。パキスタンのエスタブリッシュメントはザルダリに不満だが、斯様な妥協には進んで応じるだろうと、と予想している。

ザルダリは最近、核武器を監督する核指令機関への管理権を自発的に返上した、そして又、議会の委員会が、Musharraf 将軍が大統領に権限集中したその権限範囲を修正し、軍首脳

部人事権と議会解散権を首相に戻す作業をしている。大統領側は、大統領はこれらの事を積極的に受入れているのだと常に主張しているが、事態に関して彼の出る幕は殆ど無いだろう。最高裁決定はザルダリと彼の取巻きへの深刻な打撃になるだろう、PPP 政府への打撃と言うよりは、Yousaf Rasa Giliani 首相への特典になるし長期的観点で民主主義の強化になるだろう、と現時点多くの分析家は考えている。この評価が当たるか否かは、ザルダリが自分の党 PPP 勢力の地盤沈下を如何に防げるか、に懸っている。

Zardari が、細君の血生臭い暗殺事件の経緯で宥和的政治家として、パキスタン救国者と賛美され、彼を貶す人々の渋々の承認をも獲得した。のは僅か 2 年足らず前のことであるが随分昔のことに感じる。大統領に祭上げられた彼は、政治問題の蚊帳の外の人、社会的破滅に脅かされる人、出鱈目な恨み深い人、としばしば人物描写されている。彼がお飾りの大統領として生き残るか、汚職追求の炎で追出されるか、彼の政治的墓名碑は既に書かれつつある。

以 上

India Today, Dec.28, 2009  
By Hasan Zaidi in Karachi

訳者補足

1) パキスタンの政党

PPP Pakistan Peoples Party

PML(N) Pakistan Muslim League (N) Nawaz Sharif 党

PML(Q) Pakistan Muslim League (Q) ムシャラフがシャリフをサウディに追放後  
与党として組織した

2008 年 8 月の総選挙で PPP と PML(N)の野党連合が地滑り的大勝し、ムシャラフ引退

2) 2007 年、Bhutto 帰国、シャリフも亡命先サウディからの帰国。

2007 年 10 月 5 日に Bhutto の支援でムシャラフ大統領に再任。これに先立ち、ムシャラフは意の儘にならぬ最高裁長官 Iftikhar Muhammad Chaudhary を解職

3) 2008 年の総選挙後、PML(N)の協力でザルダリが大統領就任、首相も PPP 出身。

シャリフは協力の代償として、チョウダリー前長官復職を要求。復職すれば NRO 問題再燃を懸念するザルダリは数ヶ月時間稼ぎをしたが、結局復職させた。

4) Punjab と Sindh の間には漠然とした対抗意識が残っている。

5) 米国は民主主義の建前上、軍事政権を長年支援するわけにもゆかず、ブットーを帰国

させた。ザルダリは米国の圧力でタリバン退治を約して、この半年 軍は行動してきたが冬場になって活動は実質上休止状況に近いし、反発する過激派が国内テロ頻発。ザルダリが退陣した場合、PML(N)がタリバン徹底退治を継承するか疑問もあり、又世俗主義と奉ずるか、米国のアフガン安定化策も揺らぎかねない。ムシャラフの威光に陰りが出始めた頃から、テロが時々発生傾向が見えてきたように思う。

(了)